

# 駒沢女子大学 点検・評価報告書

## 序 章

本学は、平成 5 年 4 月 1 日、日本文化学科と国際文化学科との 2 学科から成る単一学部、人文学部として開学し、現在 12 年目を迎えている。その間、平成 12 年 4 月 1 日に人間関係学科、平成 14 年 4 月 1 日には、空間造形学科と映像コミュニケーション学科の 2 学科を増設し、現在人文学部は 5 学科によって構成されている。

また大学院は平成 14 年 4 月 1 日に人文科学研究科が設置され、仏教文化専攻修士課程の一専攻から出発し、平成 15 年 4 月 1 日には同研究科に臨床心理学専攻修士課程が開設され、現在二つの専攻から構成されている。なお、平成 10 年度には、本学に付属する研究所として日本文化研究所が設置されている。

さて、大学を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中、平成 16 年度、学校教育法の改正に伴う認証評価制度が施行された。すでに本学は平成 9 年度に自己点検・評価報告書を作成し、大学基準協会の加盟判定審査を受け、平成 10 年に大学基準協会の会員校として認められた。その時点では加盟校に対して相互評価が義務づけられているのは 10 年以内あって、本学もこれまで次の相互評価は平成 19 年度に迎えることを想定し、その後も学内において自己点検・評価活動を継続してきたのである。

しかしながらこのたび、本学は次の相互評価を受けるべき年度よりも 2 年も前に、それも認証評価制度の施行の初年度に、認証評価機関である大学基準協会の相互評価を受けることを決定した。それは、今日大学を取り巻く厳しい状況の中で、本学がいち早く学内の改革を積極的に推し進め、その成果を学外にも発信していこうとする意思を示すものである。日本の高等教育における評価制度そのものについて、今日さまざまな議論もあるが、本学では現行の認証評価制度を梃子にして、自己点検・評価活動を展開し、本学の抱えるさまざまな課題を明確にし、それを教職員一人一人が明確に自覚することによって、これまで困難であったさまざまな学内改革への取り組みを実現していくことが必要であると考えられる。

このように本学では外部機関による評価を積極的に受け止め、教育課程・教育組織を充実させる手段としてとらえ、将来にわたって女子高等教育機関としての社会的役割を果たすべく、以下において平成 16 年度の自己点検・評価活動の報告をする次第である。

なお、以下において、学部の 5 学科と大学院の 2 専攻について点検・評価するが、大学院の 2 専攻のうち臨床心理学専攻については完成年度を迎えておらず、点検・評価についても項目によっては言及できないことを付記する。